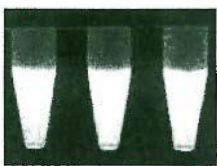


■大阪大学 永井健治教授
 らは青色とオレンジ色を発するたんぱく質を開発した。写真。従来開発した緑色に光るたんぱく質と組み合わせて使った。細胞内で働く複数の遺伝子の様子を同時に観察できた。細胞にとって毒となる紫外光をあてる必要がなく、より生体に近い状態で再現できる利点がある。成果は米科学アカデミー紀要(電子版)に24日掲載される。

青・オレンジ発色 たんぱく質開発

タケに注目。「ウミシイタケルシフェラーゼ」という物質と「セレンテラジン」という物質が関わることで光を発する点に注目した。この物質にエネルギーを増幅するよう構造を改造すると、肉眼でも観察できるくらい明るい色を出すことに成功。蛍光物質と組み合わせるため、色のパターンはさらに増やせる。



タケに注目。「ウミシイタケルシフェラーゼ」という物質と「セレンテラジン」という物質が関わることで光を発する点に注目した。この物質にエネルギーを増幅するよう構造を改造すると、肉眼でも観察できるくらい明るい色を出すことに成功。蛍光物質と組み合わせるため、色のパターンはさらに増やせる。